

発行所

曹洞宗宮城県宗務所

仙台市泉区市名坂字檜町169-4

TEL 022(218)3801

FAX 022(218)3803

e-mail:sotou-miyagi@road.ocn.ne.jp

発行者 所長 小野崎 秀通

宮城県宗務所報



(大乗山 法常寺)

宗門管内ご寺院諸老師のご推挙をいただき、昨年十二月十二日、三宅前所長老師より引継ぎ、四年の間宗務所業務を預からせて頂くこととなりました。役職員一同と共に管内ご寺院様のため努めてまいりたいと存じます。

当県では震災四年を迎えますが、震災地域寺院にとっては大変厳しい現実であります。斯かる実情の中で、被災寺院への配慮を頂くべく、本庁への具申を進め、方策を講じなければと考えているところです。兎に角も被災寺院並びに被災檀信徒各家が一日も早く復興されんことを祈念して止みません。

いま本庁では、十年毎の宗費の級階査定が委員会から出されたと聞き及びます。この四年間の内には各寺院の級数賦課金を決定しなければなりません。宗門は東高西低の格差があると聞きますので、是正を促すよう働き掛けて行きます。

さて、昨今の社会状況は、宗



御挨拶

曹洞宗宮城県宗務所長

小野崎 秀通

門にとって著しく変貌しつつあり、その対応に苦慮しなければなりません。少子高齢化、過疎化、核家族化、孤立化などに伴い、日本人の死生観が失われようとしている現状です。その結果、世は信仰の自由と叫びながら、無信仰を自負する人々が多くなり続けています。

このような社会状況においては、個々の寺院では対応しかねることが多く、宗門の枠を越えたところにその解決を求めざるを得ないのですが、同時に宗門は具体的な教化施策を講じなければなりません。

宗務所としては「檀信徒信仰集会」を復活させ、信仰ある家庭の構築に寄与して行きたいと考えます。そのため管内すべての寺院にご参加いただけるよう検討して行きたいと存じます。

何卒、諸老師各位のご教導とご協力をお願い申し上げます。

(洞源院住職)

宗務所新役職員紹介



第十五教区
徳性寺住職
辻 文生

副所長として務めさせて頂く事になり、身の引き締まる思いです。東日本大震災の被災寺院への復興支援を所長中心に役員一丸となり現状の支援を継続すると共に管内御寺院様に奉仕し、職務を全うするよう努力して参りますのでよろしくお願ひ致します。



第十九教区
長徳寺住職
佐藤 文仙

この度教化主事を拝命致しました。元より浅学非才では有りますが小野崎所長の下、管内御寺院様始め皆様方の御指導を賜り職務を遂行してまいる所存ですので、よろしくお願ひ申し上げます。



第七教区
龍泉院住職
佐藤 孝洋

庶務主事を務めさせて頂くことになりました。若輩並びに浅学非才でありますので、管内各御寺院様・各教区長様の御協力を賜りながら努力して参ります。何卒宜しくお願ひ申し上げます。



第五教区
休庵寺住職
田村 修樹

引き続き梅花主事を拝命致しました。三期目となりますが、氣持を新たに務めさせていただきます所存です。ご指導ご協力の程何卒宜しくお願ひ申し上げます。



第四教区
智福院住職
亀井 光昭

この度、人権主事を拝命し、人権における啓発活動を皆様方の御支援のもと、微力ではありますが不借身命の気持ちで任務に邁進させていただきたいと思ひます。今後共御協力のほどよろしくお願ひ致します。



(書記)

○千葉患慈です。三期目となりますが初心を忘れず宗務所業務に貢献出来るように頑張っていきたいと思ひます。



○二宅俊邦です。引き続き書記を拝命しました。宗務業務に貢献出来るよう、尚一層精進して参りたいと思ひます。



○高橋良宗
書記を拝命し身の引き締まる思いです。日々の研鑽を大切に



精進する所存です。よろしくお願ひ致します。
○坂野太俊です。右も左もわからぬ若輩者ではありますが、日々精進して参ります。



平成二十六年第一回現職研修会

平成二十六年六月二十三日〜二十四日 於松島大観荘

布教教化に関する告諭

第十七教区 観昌寺副住職

門脇 正宏



この度の研修において「平成二十六年度布教教化に関する告諭について」、特派布教師である奥野



昭典師より講義を受けました。

告諭には、「人権の尊重、平和の実現、環境の保全」の取り組みを柱とし、自己中心的な快適さや便利さを求める暮らしを見直し、原子力に頼らない社会、一人ひとりが大切にされる社会の実現を願っていますとあります。そのために、「布施」物でも心でも惜しみなく分かちあい、いのちを生かしあう教えを学び、実践していくべきことが述べられています。

東日本大震災から三年の月日がたちました。しかしながら、復旧復興の道のりはまだ遠く、今も不便な生活を余儀なくされている多くの皆さんがおられます。その苦悩を思い、さらに地球環境の変化や、争い、貧困、格差、いじめ、自死等の諸問題に向き合う時、この告諭の教えをそれぞれがおかれている立場で、いかに学び実践し布教していくかが私達の生きる姿勢の中に問われているのだと実感



しました。

おりしも、研修のありました六月二十三日は、大本山總持寺二祖峨山韶碩禪師の誕生祭が、石川県の津幡町瓜生の顕彰碑の前で営まれました。二祖様の功績が今日の曹洞宗の教えを全国に展開する礎となり、受け継がれてきたことを意義深く感じました。

「布施」の菩薩行を日常生活に生かしていくことが大切だと思いました。

「続・四大綱領を学ぶ」 受講記

第二教区 東雲院副住職

堀越 正知



私はこれまで、この研修会に参加したことがなかったのですが、本年度より青少年教化員になったこともあり、少しでも自己研鑽の場を増やしたいと思い、今回初めて参加することに致しました。

さて、本研修第二講は、「続・四大綱領を学ぶ」でした。講師は秋田県長禪寺御住職、金子宗元老師（総合研究センター客員研修員）でした。研修は休憩なしの二時間も続く長丁場でしたが、金子老師がテンポの良い語り口調で講義を進めて行かれましたので、私もすぐに話の中に引き込まれました。
「四大綱領」は平成二十五・二十六年度と続く研修の統一テーマで、昨年度は「四大綱領」の成立や展開、「四大綱領」と密接な関



係にある「修証義」前三章を中心に学ばれたとのことでした。そして本年度は、昨年論じることが出来なかった第四章第五章の内容を中心に研修が進められて行きました。

した。

「修証義」は各種法要でよく読誦されるお経のひとつです。私もある程度は暗誦し、内容も理解しているつもりでした。

しかし、この研修を通して、「修証義」の教理・解釈というものが、いかに奥深いものであるかがわかりました。また、その解釈や禅戒一如をめぐる諸問題があったことも知りました。

様々な問題があったにせよ、曹洞宗宗典であり、「四大綱領」の教えを我々宗侶はしっかり護持して行く必要があると思いました。私もこの研修を機にさらに勉強し、参究を深めて行く所存です。

『明日へ『ひと』として 〜啓発から行動へ〜』

第十教区 興安寺住職

熊本 俊龍



講師として、宗務庁人権啓発相



談員の山形県真秀寺大滝泰禅師より、本年度の「啓発DVD」による研修を受講しました。

一九七九年（昭和五十四年）第三回世界宗教者平和会議の差別発言事件〜現在に至るさまざまな差別や人権の課題などのべられ「行

動への気づき・目ざめ」の実践例として、東京都宗務所人権擁護委員会の活動等が紹介されました。

毎年本庁で作成されている啓発DVD（本作は十六作目）を、各教区で研修していく事の重要さを改めて痛感いたしました。

昨年から『四大綱領』について学びながら、結論として、人権学習は現場から作り上げていかねば、絵に書いた餅となってしまうということ。を宗侶一人一人に問いかけています…ということなので。

当教区では、毎年教区護持会の研修会にて、宗侶と一体となって「DVD学習」を実施しております。我々だけの課題・研修だけではなく、檀信徒と一体となって人権学習をおこなっております。

宗務所護持会本山研修に参加して

平成二十六年十月十四日～十月十六日 大本山永平寺



第五教区

村田町沼田

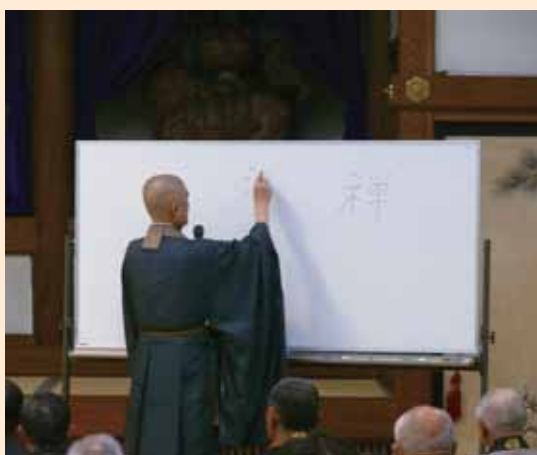
自得寺檀徒 我妻廣哉

平成二十六年十月十四日～十六日の日程で本山研修に参加しました。台風十九号の来襲で心配されましたが無事発つことができました。

早朝よりの旅で疲れもありましたが、大小七十余りの建物が立ち並ぶ参道を進むにつれ何かしら体に感じるものがあり身が引き締まる思いでした。

開講式の後短時間の入浴、初めての作法での薬石、そして夜坐、長く感じた坐禅の時間でした。法話、上山して数々の修行など行い成長して行く若い僧た

ちの姿を映画で見ました。開枕四十数名みんなが一同に会して枕を寄せ合い床に就きました。ここで一日目の日程は終わります。



二日目、三時半までは全員身支度を整えて暁天坐禅に臨みました、前夜の様な苦痛もなく受けた警策のお蔭でしょうか終えることができました。

法堂にて先祖供養を受け、夜が明け始めた中、七堂伽藍の案内説明がありました。小食後閉講式となり、九時過ぎに三方を山に囲まれた本山を後にしました。|| 新鮮な体験と身が洗われた自分に感謝しながら ||

夜は琵琶湖の湖畔の宿で同行の県内各寺院の役員の皆さんと大いに親交を深めました。三・一一の震災で被害を受けた寺院からは多くの皆さんからのお見舞いや援助に対して御礼の言葉がありました。

三日目、京都市内の仏教ゆかりの地や貴重な釈迦像が祀られている寺院などを参拝し帰路につきました。天候にも恵まれまして充実の日々を過ごしました。研修を共にした皆さん、お世話いただきました宗務所の方々、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。合掌





研修への出発が台風直撃と重なり欠航を心配しましたが、空港に着く頃には青空が見え定刻に飛び立ちました。移動するバスでは、バスガイドさんの軽快な関西弁を聞きながら和やかな



第九教区

大崎市古川
萬年寺檀徒
中川英一



大本山永平寺講堂

雰囲気の中、永平寺に到着しました。境内は三方を山に囲まれた深山幽谷の地に建物が並んでおり、さすが曹洞宗の大本山と

思いました。初日は開講式に始まり入浴、薬石、坐禅指導、布教部長の法話、修行僧の厳しい生活を描いた映画を見て感動しました。翌日は暁天坐禅を行った後法堂での朝課（朝の読経）に参拝させて頂き、修行僧の糸乱れぬ読経の声が堂内に響き渡り、心が清浄になる厳かなひと時を体験しました。最後に七堂伽藍を



巡り説明を聞き拝観し、僧侶が修行する重要な場所であることを確認しました。坐禅とともに食事も大切な修行であり「ただく食事に感謝し、わが身の行いを反省する」ことに共感しました。今後は仏教の教えを日常生活の中で実践していきたいと思えます。

人の命に軽重はないが、しかし子供達が亡くなるということ、は一個の命に止まらず、将来幾世代にも繋がる命が一気に断ち切られたということ。そう話すのは、平成二十二年三月十一日、当時石巻市立大川小PTA会長だった、武山剛さん。以来武山さんは、大川小遺族会に姿を変えた会員の核となり、当時の混乱期を乗り切って来ました。今は「残された私達は、供養が務め。一緒に行った友達や家族とともに安らかに過ごし、私等が行くまで見守っていて欲しい」と言います。

当時「JAいしのまき」石巻地域本部長だった武山さんは、大きな地震の揺れが止むとすぐに施設の被害調査と職員の安否調査を行い、一段落した午後五時過ぎに職場をえました。自宅へ向かいましたが、大川地区境の福地閘門で北上川破堤のため通行止めに遭遇。すでに周りは真っ暗で、雪の降る中、軽トラックの中で一夜を明かすことになりました。

翌日、知り合いの消防団員が山伝いに来たのとお会い、大川小学校の様子を聞くことができ

ました。子供達は絶望だと一瞬に悟ったと言います。しかし、パニックになるのが怖く、誰にも話せなかったそうです。

三日目に付近の小船で川伝いに行けることになり、その日に三年生だった次女瑠優ちゃんも遺体と対面します。自宅の両親も孫の帰宅を待ち、避難が遅れて津波に遭遇。母は同じ日に、小学校近くの高台で遺体で確認

人物随聞記 (九)



大川小遺族会のまとめ役…

石巻市長面龍谷院檀徒

武山 剛さん

石巻市長面龍谷院檀徒の武山剛さんにお話を聞きました。

されることになりました。五年生の長女・早李ちゃん、そして父も後に遺体で見えませんでした。

妻の幸代さんは、市内中里で経営するエステサロンの研修で、東松島市赤井に出かけて津波に遭遇しました。剛さんは付近の避難所等を懸命に探しましたが、結局一週間後に石巻河南インター近くのJA施設で出会うことが出来ました。

以来、夫妻は避難所の河北ビツグバンから大川小へ出かけ、警察や自衛隊、消防団員等の捜索に加わる日々。遺体に掛ける布も安置する場所もない有様で、持参の手ぬぐいで顔の泥を拭いてあげるのが精一杯。時には収容が間に合わず、そのまま現場に置いてこなければならぬことが、本当に辛かったと言います。

PTAや地域の人々と捜索に加わる日々は、四十九日忌まで続きました。以後PTA有志の捜索は休日毎に二年ほど続けられ、武山さんは今も続けているそうです。当時は火葬場も限界に達し、大人は仮埋葬へ。満足な葬儀も出来なかったことが、本当に申し訳なかった…と言います。

PTA会長として「せめて四

十九日忌だけはやろう」。地区の寺院は曹洞宗六寺院と、浄土宗一寺院。うち曹洞宗三寺院が津波で全壊してしまいました。東奔西走の結果、曹洞宗第十二教区とJA葬祭の全面支援を得て、飯野川第二小の体育館で、立派に法要が出来ました。

旧大川小跡地には、児童教職員慰霊碑が建てられています。これも「供養が残された者の務め」と思う武山さん等、PTAの願いが後押しをしました。しかし「お参りは朝早くか、ほぼ暗くなる頃…」。なぜなら、お参りしていると「ホラ、ホラ、遺族だよ」と言っひそひそ声や、容赦ないカメラのシャッター音が聞こえて、とても静かにお参り出来ません。

学校や教育委員会の責任問題はマスコミの報道に譲り、武山さんは今「PTA会長として親として、防災について常日頃から考えてこなかった。学校と防災計画を考えると、避難路を造る推進を図るとかして置くべきだった」と、しみじみ話しておりました。

(前所報編集委員 千田 豊穂)

布教師協議会コーナー

第十回布教実践講習会報告



第二十一教区

長泉寺住職

真山 隆道

去る平成二十七年一月二十七日（水）午後二時半より仙台サンプラザで開催された第五十五回仏の教えを聞く会終了後、午後四時半より第十回布教実践講習会が開催されました。

「峨山韶碩禪師の御遺徳―六五〇回大遠忌に向けて―」と題して鶴見大学非常勤講師横浜市徳善寺住職尾崎正善師に九十分間にわたりご講演頂きました。

はじめに平成二十七年の大本山總持寺二世峨山韶碩禪師六五〇回大遠忌に向けて再版された「峨山禪師物語」や、DVD「相承」の編集に携わった経験からの苦勞話や、裏話を交えながら曹洞宗では、なぜ道元禪師、懷奘禪師、瑩山禪師、峨山禪師の四師の大遠忌を行うのかについて、「洞谷記」や「峨山石」をもとにしてお話し頂き、さらに、瑩山禪師が總持

寺に入寺された四年後には、總持寺二世になられた峨山禪師が、その後、四十二年間にわたり總持寺の護持、発展に尽力され、その間に二十五哲をはじめ多数の弟子の育成に心血を注がれたことを、「蔭涼軒日録」「諸嶽山總持寺二代韶碩和尚嗣法次第」等を引用されながら解説され、その結果、今日の曹洞宗門の発展の基盤を築かれたという業績についてお話し頂きました。

短時間にもかかわらず要領を得た明解なご講演でありました。

本会発足以来十二年になり会員も四十五名を数える程になりましたが、この日の参加者は十六名でした。

寺檀制度は風前の灯火、宗門の未来は、寺院の将来はどうなるのか、宗門人であれば誰しもが憂慮されておられることと思いますが、昨今の自由と勝手気ままを履き違え、将来を憂い迷える衆生にどのように、仏祖や祖師方の御教えを伝えるか、布教化のために日々実践実究されておられる宗侶の皆様、共に切磋琢磨するためにも当会への参加を切に願う者であります。

青少年教化員の活動について



第十三教区

青少年教化員

照源寺 副住職

三宅 大哲

青少年教化員では、いじめ撲滅をテーマに寺院や学校等で演劇を行っています。演題は「すてきな洪柿」、山寺を舞台に和尚さんと小僧さんが繰り広げる笑いあり涙ありの喜劇です。また今年度は、カンボジア教育支援チャリティバザーで、その趣旨を題材にした演劇も行いました。

今期私は、役者として参加することが多かったのですが、会場毎の雰囲気を楽しみながら務めさせて頂きました。

講演依頼は随時受け付けております。

希望される場合は宗務所までお問い合わせ下さい。



生活の中の仏教語

しょうじいちによ
生死一如

—今をすてきに生きる—

栗原市花山 城国寺副住職 菅原 研州

作家の高村薫さんが、「『生きた』と『死んだ』というエッセイを、岩波書店『図書』という雑誌に寄稿しておられました。阪神大震災で大きなショックを受けた高村さんは、自分の心身に大穴があったと思ったそうです。しかし、ある僧侶が、「震災であったのではない。元々あっていたのに気づいただけだ」と諭し、世の無常を説いたそうです。高村さんは、仏教の教えは、我々が普段、常識だと思っていることを転換させて、迷いを解き放つと書かれました。

永平寺を開いた道元禪師に、

『正法眼蔵』「山水経」巻という教えがあります。道元禪師は、中国の禅僧が語った「青山常運歩（青き山が常に歩いている）」という言葉を取り上げて、「山は常に歩いていく。人が歩く様子と同じように見えないからといって、山が歩いていないと疑ってはならない」と説きました。この教えも、普段は常識だと思っていることを転換させる教えです。

私はこの言葉を見た時、二〇〇八年に起きた岩手・宮城内陸地震で、私の寺がある宮城県旧花山村地区の山の形が大きく変わったのを思い出

ます。普段は動かない山全体が崩れ、あとかたも無くなり、地形が変わりました。確かに、大地震が来て初めて崩れたわけですが、元々無常だったからこそ崩れたわけです。

我々は日々の生活が安定している場合、この世界の真実の姿が無常であることを忘れてます。そして、何かの事件・事故・災害などを通して無常に気づきます。ところが、先に紹介した二つの教えにあるように、常識だと思っていることは、何かの勘違いであるかもしれないのです。よくよく考えてみれば、我々のいちちは永遠ではなく、一度過ぎた時間は二度と帰っては来ません。

そのように無常を思えば、毎日毎日の生活がかけがえないものだと思えます。そして、無常を思う日々の生活を通して、まっすぐに死を迎えることもできる、それを仏教では「生死一如」ともいうのです。

おすすめの本Ⅰ

十二教区 照源寺 三宅 哲也

『いのちの中にある地球』

デヴィッド・スズキ

辻 信一訳



近年、環境破壊が進み、水、土、空気が汚染され、多くの生物が絶滅している。これは経済の成長、化学の発展で我々が快適な暮らしを求めて来た結果であり、著者は今の生活を続けていけば人類も同じ事になると警告している。

しかし、人類も地球上に住む一生物であり、自然や他の生物と共生することで、持続可能な調和のとれた環境をとり戻す事が出来るという。

著者は、生物学者であり、カナダで最高の荣誉とされるカナダ勲章を受章している環境運動家でもある。本書は人類と地球の関係について、最新の科学知識と先住民族の知恵をまじえ語られており、これからの生き方を考えさせられる本である。

おすすめの本Ⅱ

十四教区 長照寺 斎藤 昭道

ロウソクの科学 ファラデー著

三石 巖訳



本書はイギリスの科学者マイケル・ファラデーが一八六一年にロ

ンドンの王立研究所で行った講演記録です。この講演には王侯貴族から一般市民の子どもまであらゆる階層の人々が聞きにきたそうです。オリジナルのタイトル The Chemical History of a Candle が示すように、ロウソクという身近なものを入り口として化学の歴史を紐解いたものです。

当代一流の科学者が、全くの素人に対して前提の知識をもとめず語ったその講演は、聴衆に探究心を持たせ、単に知識を伝えるものにとどまらず、自然科学の本質に迫るものとなっており、歴史上の名演として語り継がれているものです。

一五〇年以上前のもので、翻訳も多少大時代的なところもありますが、「伝える」という熱意は今もって我々の心を打ちます。文庫本で一七〇頁ほどです。ネットなら無料で読めます。お時間のあるとき、いかがですか。

「精進料理」

揚げ蕎麦がき 汲みあげ湯葉 鼈甲餡仕立て

第十四教区

宗恵寺 副住職 長尾靖樹

【材料】

- ・蕎麦粉 ・昆布椎茸だし
- ・汲みあげ湯葉 ・山葵 ・油
- 【鼈甲餡】
- ・昆布椎茸 300 cc
- ・みりん 90 cc
- ・濃口醤油 40 cc
- ・たまり醤油 40 cc
- ・薄葛(なければ片栗粉)

【作り方】

- 一、鍋に蕎麦粉1に対して昆布椎茸だし4を入れてよく混ぜ、強火にかけて粘りとコシが出るまで練りあげる。
- 二、すぐに水で湿らせたさらしにとって直径4 cmほどに茶巾に絞り、氷水に入れて表面を固める。
- 三、すぐに水気をよくふきとり、中が温かいうちに油で揚げる。
- 四、揚げ蕎麦がきを盛り、汲みあげ湯葉をのせ、鼈甲餡をかけ、山葵をあしらう。

【鼈甲餡】

- 一、鍋に昆布椎茸だし600 cc、みりん180 ccを合わせて火にかけて、ひと煮立ちしたら弱火にしてアクをとる。
- 二、濃口醤油90 cc、たまり醤油90 ccを加えて、ひと煮立ちしたらいったん火をとめ、すぐに薄葛をひく。
- 三、もう一度火にかけてツヤよく練りあげる。



人権コーナー

人権擁護の推進について

人権主事 亀井光昭

この度、曹洞宗宮城県人権擁護推進主事を拝命した亀井光昭です。これから微力ながら人権擁護推進の規定に基づき宗務所管内における拡充を図ることを目ざし、運営に携わる所存であります。先ず一つには正しい仏教並びに教理解の啓発をすること、二つには人権侵害事件及び差別問題を正確に把握すること、三つには差別解消に積極的に参画していくこと、四つには地域の人権啓発運動に参画すること、五つにはその他曹洞宗人権擁護推進本部並びに委員会が必要と認めることを推進する。我々職員は委員長を補

佐し職務を遂行することに専念したいと考えております。特に力を入れてやるべきことは差別、偏見などの人道に係わる件です。この件につきましては宗務所、宗門、檀信徒が一体となって今後推進すべき課題です。これからの時代は、いつ何処で何が起こるか分からない時代になってきたと存じます。その人権が侵されないように寺院の方々は特に協力を仰ぎ規定に基づいて人権擁護推進を進めて参りたいと存じます。今後とも御寺院様の寛大なる御協力を頂き推進することを初心の挨拶とさせていただきます。

第四教区

法常寺沿革



大乗山法常寺住職 氏家隆浩

表紙写真説明

大乗山法常寺は、岩沼駅より西に約一・五キロの高台に位置し、福島県須賀川市長祿寺六世大華笑意大和尚により天正元年（一五七二）に開山された。本尊は釈迦牟尼佛。もとは岩沼市鼻輪崎にあった紅梅山梅雲寺という天台宗の寺を改宗現在地に再興したものである。藩政時代は「御知行壹貫三百文領主在国の節は年始に十帖壹献上御目見被付候」とあり、「隠居入院の節は願の上住職被仰付、十帖壹本献上仕継目御目見被付仰候事」とある。貞山公の時に二世般翁太門大和尚正月二十日御城に召し出され法問を御聴聞あり、その節、般翁の法問を御称美あって奥山大学を以て寺領八百文附け下され、更に二代義山公の時古内主膳を以て

御増加五百文をし出し置かれ、都合壹貫三百文の御墨印を頂戴した。また當寺は岩沼領主田村右京が一ノ関に御所替後、旧邑世古内家の牌寺である。尚、當寺は元文元年（一七三六）火災により焼失、元治元年（一八六三）暴風のため倒壊し、その都度再建したが仮建築に終わった。現在の建物は二十六世大觀隆芳代に昭和四十二年本堂・庫裡を新築再建、昭和五十二年に山門を新築再建、昭和六十二年に檀信徒会館が整備された。また二十七世現住が平成二十年書院を建築する。また當寺六世理山龍至大和尚が地内觀音崎に聖觀世音を本尊とする善門山慈眼寺を建立し、一時は盛隆を極めたがいつしか荒廃し現在は廃寺となっている。

新命住職

第2教区	34番	法幢師	佐藤 敬心 師
江巖寺	我妻 俊道 師	26・9・9	
第2教区	9番	法幢師	佐藤 法隆 兄
瑞雲寺	志水 賢宏 師	26・9・19	
第2教区	20番	法幢師	齋藤 仰史 師
裁松院	目黒 耕道 師	26・9・30	
第3教区	36番	法幢師	齋藤 仰史 師
慈雲寺	三峯 康二 師	26・12・1	
第4教区	73番	法幢師	赤間 直道 師
圓滿寺	館寺 規弘 師	26・12・1	
第5教区	127番	法幢師	赤間 直道 師
龍島院	丹羽 貴道 師	26・12・1	

結制修行

(一層の弁道精進を祈ります)

第十教区	260番	法幢師	工藤 浩秀 師
(平成26 冬・前・初会)			
首座	工藤 康真 兄		
第十六教区	410番	法幢師	工藤 靈龍 師
(平成26 冬・前・初会)			
首座	澤野 武泰 兄		

第十七教区 426番 法泉寺

(平成26 冬・前・初会)

法幢師 佐藤 敬心 師

首座 佐藤 法隆 兄

第十八教区 463番 玉泉寺

(平成26 冬・前・初会)

法幢師 齋藤 仰史 師

首座 田淵 禪裕 兄

第二十一教区 56番 大満寺

(平成26 冬・前・初会)

法幢師 佐藤 透光 師

首座 佐藤 秀胤 兄

第二十一教区 64番 龍角寺

(平成26 冬・前・初会)

法幢師 赤間 直道 師

首座 赤間 良器 兄

遷化

(謹んで弔意を表します)

第一教区	10番	3・1・29	
瀧澤寺徒弟	金澤 良閔 師	76歳	
第三教区	39番	26・8・31	
東光寺東堂	吉岡 弘道 師	94歳	
第六教区	141番	26・9・15	
自照院東堂	錦織 文悦 師	78歳	
第五教区	127番	26・10・13	
龍島院住職	丹羽 智道 師	62歳	
第十二教区	320番	26・10・14	
香積寺東堂	川村 昭道 師	94歳	

逝去

(謹んで弔意を表します)

第八教区	204番	21・1・16	
城泉院寺族	高橋はつみ 様	94歳	
第十三教区	307番	26・7・9	
保福寺寺族	金子 春子 様	85歳	
第一教区	10番	26・7・14	
瀧澤寺寺族	庄司ミサコ 様	96歳	

編集後記

東日本大震災から四年、昨年も国内に於いて度重なる豪雨による土砂災害、御嶽山噴火などにより多くの尊い命が失われ、正に災害列島の様相を呈してあります。海外に目を向ければ自然災害と共に航空機事故、フェリー沈没事故、イスラム国の人質事件等の被害、目を覆いたくなる事件、事故が起きております。この様な暗いニュースの中にも、青色LED開発でノーベル物理学賞受賞のお三方、プロテニスプレーヤー錦織圭さんの活躍など明るい話題もあり、私たちは次々起こる出来事に一喜一憂し日々を過ごしております。

宋西禅師は貧しい夫婦と子供を助けるため仏像の光背を打ち破り与えた。仏道修行は、人びとが苦しめば僧侶も苦しむ、世間が悲しめば僧侶も悲しむ、たとえ仏教の戒律を順守していても、それが世間と遊離した仏教ではいけない。たとえ戒律を破つても人びとを救済するのであれば、仏様の心に叶うことであると言われています。僧侶は人々と共に、苦難、喜びを分かち合う慈悲喜捨の四無量心を心がける生活でなければなりません。宗務所としても、管内御寺院様、檀信徒の皆様と共に宗務行政を遂行し、共に良い宗門となり得るよう努力してまいります。又、宗門に関わる情報がありましたら提供をお願いいたします。

宗務所長名の檀信徒用感謝状
弔辞を準備しております。
お問い合わせください。